

令和6年度 若栗小学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	確かな学力の育成(知)	
重点課題	よりよい学び方の定着に向けたノートやタブレットの活用	
現 状	・一昨年度から、算数科を中心に自分の考えが分かりやすいノート作りを目指してきた。ノートの書き方例等を作成して示し、全学年で取り組むことで、自分の考えをもちノートにまとめる力が高まってきた。また、ペア学習や全体での話し合いを通し、対話することを重視することで、友達の考えを取り入れながら自分の考えを見直し、よりよく再構築しようとする児童も増えてきた。しかし、ノートと併用するタブレット端末上では、自分の考えを見直したり深めたりすることに課題が残った。本年度は、学年の実態に応じてノートやタブレットの活用場面を考えながら自分の考えを再構築するよさをさらに実感し、主体的に学ぶ態度の高まりを目指す。	
達成目標	学習において「自分の考えを見直そうとしているか」について自己評価し、「できた」と評価した児童が、85%以上になることを目指す。	
方 策	・学年の実態に応じ、ノートやタブレット端末に自分の考えをまとめて友達と伝え合い、互いの考えのよさを感じ合える場の設定を工夫する。 ・授業の終末に、自己の学びのよさに気付くことができる振り返りの場を工夫し、成果の把握に努める。	
達 成 度	「自分の考えを見直そうとしている」85%以上達成者の割合【7月～2月までの年間達成率】 1学期 78.7% 2学期 81.7% 3学期 90.1% 年間 83.5%	
具体的な 取組状況	「互いの考えのよさを感じ合える場」 ・多様な子供たちが主体的に学び合うことができるよう、特別支援教育の視点を生かした教材づくりや環境づくりに取り組んだ。一人一人が見通しをもって活動を進めらるよう、ねらいを明確にした単元構想、正しく内容を捉えることができる学習課題の提示に努めた。知的好奇心を喚起するような対象との出会いの場を設けたり、活動の手順や学び方を具体的に示したりすることで、課題の解決に意欲的に取り組もうとする子供が増えた。課題解決の過程では、既得の知識・技能を生かしたり、教師がタブレット端末上に送った活用可能な情報を選択したりしながら自分の考えをノートやタブレット端末にまとめる時間を十分に保障した。伝えたい思いが高まったタイミングで話し合いの場を設定し、互いの考えが可視化できるよう、異同が分かりやすい構造的な板書やタブレット端末上での共有、ペアやグループでの対話を取り入れた。そうすることで友達の考えのよさに触れ、必要に応じて追体験等を行うことで実感につなげ、ねらいに向けて自分の考えを見直し、よりよく構築しようとする態度が高まった。 「自己の学びのよさに気付くことができる振り返りの場」 ・自分の学び方を振り返り、学んだことの意義や価値を実感して生活や学習場面に活用することができるよう振り返りの時間を工夫した。また、子供たちのよい点や進歩の状況を見取り、指導の改善に生かした。 ・毎学期に「4 A運動強調週間」を設定し、学び方に対する子供の意識を継続させながら1週間を振り返ることで、互いの考えを比べ、友達の考えのよさを見付けようとしながらよりよく学び合う態度の高まりが見られるようになった。	
評 価	B	・83.5%と全体として目標の85%には達しなかったが、1学期よりは2学期、2学期よりは3学期と達成者の割合は増えた。年間を通して各学級で継続的に取り組んだことで主体的に学ぶ態度は高まってきたと言える。
次年度へ向 けての課題	・書くことによって自分の思考を深めるために、それぞれのよさを生かしてノートに書くかタブレット端末にまとめるか、発達段階に応じて選択したり併用したりすることができた。自分の考えをもち必要感をもって思考を交流したことで、主体的な学びにつながった。しかし、ペアやグループの対話では、ノートを見せる、書いたことをそのまま話すだけの子供もおり、考えのよさが相手に伝わりにくいこともあった。日頃から聞き手を意識した話し方を積み重ねる、伝える前に自分の考えを整理する時間を設けるなどの手立てで、相手意識は高まると思われる。今後も効果的な指導方法について共有しながらよりよい学び方の定着を図っていきたい。	
外部評価 (学校評議員)		

